

令和 7 年度
「運営に関する計画」
自己評価(中間評価)

大阪市立市岡東中学校
令和 7 年 10 月

目次

総括シート

| | |
|-----------------------------------|---|
| ● 学校運営の中期目標 | 3 |
| ● 中期目標の達成に向けた年度目標 | 4 |
| ● 本年度の自己評価結果の総括 | 5 |

目標別シート

| | |
|--|----|
| 最重要目標 1 安全・安心な教育の推進 | 6 |
| ● 取組内容 01 1-1 いじめへの対応 | 6 |
| ● 取組内容 02 1-2 不登校への対応 | 6 |
| ● 取組内容 03 1-3 問題行動への対応 | 7 |
| ● 取組内容 04 1-3 問題行動への対応 | 7 |
| ● 取組内容 05 1-5 防災・減災教育の推進 | 7 |
| ● 取組内容 06 1-6 安全教育の推進 | 7 |
| ● 取組内容 07 1-6 安全教育の推進 | 7 |
| ● 取組内容 08 2-1 道徳教育の推進 | 7 |
| ● 取組内容 09 2-2 キャリア教育の充実 | 7 |
| ● 取組内容 10 2-3 人権を尊重する教育の推進 | 8 |
| ● 取組内容 11 2-4 インクルーシブ教育の推進 | 8 |
| ● 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 8 |
| ● 次年度(今後)への改善点 | 9 |
| 最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上 | 11 |
| ● 取組内容 12 4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成) | 8 |
| ● 取組内容 13 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(実態に応じた個別支援の充実) | 11 |
| ● 取組内容 14 5-2 健康教育・食育の推進 | 12 |
| ● 取組内容 15 5-2 健康教育・食育の推進 | 12 |
| ● 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 12 |
| ● 次年度(今後)への改善点 | 12 |
| 最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実 | 14 |
| ● 取組内容 16 6-1 ICT を活用した教育の推進 | 14 |
| ● 取組内容 17 7-1 働き方改革の推進 | 14 |
| ● 取組内容 18 8-3 学校図書館の活性化 | 14 |
| ● 取組内容 19 9-2 地域学校協働活動の推進 | 15 |
| ● 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | 15 |
| ● 次年度(今後)への改善点 | 15 |

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

学校理念

安心・安全な学校

学力・体力の向上

人権尊重の精神

- 基礎・基本の充実を図り、自ら学ぶ態度の育成に努め、学力の向上を図る。
- 自らを尊重し、互いに違いを認め合い、他社へ思いやりの心を育て、人権尊重の精神を養う。
- 基本的生活習慣を身につけ、たくましく生きる力の基礎を育み、健康で活力ある学校生活をおくる生徒を育成する。

教育目標

- よく聴き、よく見つめ、よく考えて正しく判断できる生徒になろう。
- 協力し、自主的にものごとにとりくみ、やりぬく生徒になろう。
- 心身ともに健康な、たくましい生徒になろう。

生徒努力目標

- 時間を大切にしよう
- 学校を美しくしよう
- あいさつをしよう

現状と課題

- 昨年度はいじめ問題、不登校生徒の問題について考えなければならない状況があった。いじめ問題についてはSNSを悪用し特定生徒の情報が複数の生徒に送られる事態が起こった。弁護士や警察署から講師を招いてSNSの使い方やその怖さについて話を来ていただくなど、予防に努めているが、生徒のケアと指導を今度も続けていく必要がある。

不登校問題については、1年生で2学期に不登校生徒が増えた。また不登校生徒の家庭から学校への要望レベルが高いものも見られ、保護者からの期待に応えるのは非常に難しい場面もあった。学校として、担任だけでなく学年教師、学年だけでなく養護教諭や他学年教師、また不登校支援担当者を準備したりなど多岐にわたって対応の幅を広げ、中には一時期より登校できるようになった生徒もいる。しかし、なかなか解決するところまでつながっていない。今後も教職員全体制で連携し、それぞれの生徒にとって問題解決につながるよう、根気強く対応方法を考え続けていく必要がある。

一方、泊行事、文化発表会、体育大会など、どの行事も生徒は真剣に取り組み非常に盛り上がった。集団活動を通してよりよい人間関係を作り、経験を重ねていくことの大切さを感じる機会となった。2・3年生の学年行事でも、生徒自身が企画・運営をしていくことで、様々な能力を養うことができ、自分は必要とされているといった自己肯定感・自己有用感も育むことができ、学校生活が楽しいと感じる機会を増やすことにつながったと思われる。

- 学力テストはおおむね結果が向上している。落ち着いた授業の様子、先生方の授業指導力をあげようとする意識の向上など、日ごろから生徒、教師とともに努力していることが結果につながっていると思われる。集団としての結果も大切だが、個々の学力をしていくことも大切である。気になるのが授業内で学習理解が難しい、また家庭での学習習慣が身についていない、という生徒が一定数存在することである。それぞれの学力層に対応した学習指導ができれば、さらに学力は向上していくと思われる所以、効果的な指導方法を改善・研究していく必要がある。また、家庭学習の定着には同学年内で大きな隔たりがみられることが課題と思われる所以、今後も家庭学習を含めた継続的な学習支援をしていく必要がある。

- ICTの活用について昨年度は大きく数値が伸びた。しかし内容を見ると「こころの天気」の使用に偏っている部分があり、まなびのポータルなど学習理解に効果的な活用方法をさらに広げていく必要がある。

時差勤務制度が導入され教職員それぞれのライフスタイルに合わせて働くことが可能となり勤務

時間の使い方を本人が有効に決めることができる環境が整ってきた。さらに業務の効率化・分担化をすすめ、勤務時間内に業務を終える意識の向上も図っていきたい。

中期目標

安全・安心な教育の推進

- ◊ 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。
- ◊ 令和7年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ◊ 令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和3年度末より減少させる。※令和3年度末: 10.0%
- ◊ 令和7年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- ◊ 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、令和3年度より向上させる。※令和3年度: 45.2%
- ◊ 令和7年度の大都市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を、令和3年度より向上させる。※令和3年度: 54.2%
- ◊ 令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を、令和3年度より向上させる。※令和3年度: 47.9%
- ◊ 令和7年度末の校内調査における「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ◊ 令和7年度末の校内調査における「家庭学習を習慣的に行っている」の項目について、「当てはまっている(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

学びを支える教育環境の充実

- ◊ 令和7年度末まで、学習者用端末などのICT機器を授業において毎日使用するようとする。
- ◊ 令和3~7年度末まで、本校の教員1人当たり平均時間外勤務時間を全市中学校平均時間より少なくする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

安全・安心な教育の推進

- ◊ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。
- ◊ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。※前年度: 17.1%
- ◊ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。※前年度: 6.7%
- ◊ 校内調査において、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を79%以上にする。
- ◊ 校内調査において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- ◊ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を48%以上にする。
- ◊ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。※前年度: 3年国語1.04、数学1.02、2年国語1.01、数学1.16、1年国語1.04、数学1.10

- ◊ 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 64%以上にする。
- ◊ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 55%以上にする。
- ◊ 校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 86%以上にする。
- ◊ 校内調査において、「平日 1 日の家庭学習の平均時間はどれくらいですか?(塾・家庭教師などを含む)」の項目について、「1 時間以上」と回答する生徒の割合を 62%以上にする。

学びを支える教育環境の充実

- ◊ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ◊ 学習者用端末にある「スクールライフノート」の活用を週 3 回以上実施する。
- ◊ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 43%以上にする。(基準 1:1 か月の時間外勤務時間が 45 時間以下かつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下)
- ◊ 学習者端末にある各種機能を教職員が理解し、授業や家庭学習において活用できるように取り組む。
- ◊ 繁忙期を除いて毎日の完全退勤を 19 時とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

-

項目や取組の重点の置き方について

-

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

-

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

-

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 安全・安心な教育の推進 <p>◆ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を83%以上にする。</p> <p>▶ 84.3%(R7.7) 達成</p> <p>◆ 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。※前年度 17.1%</p> <p>▶ 13.9%(49/352人、R7.10) 達成</p> <p>◆ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。※前年度 6.7%</p> <p>▶</p> <p>◆ 校内調査において、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を79%以上にする。</p> <p>▶ 80.6%(R7.7) 達成</p> <p>◆ 校内調査において、「学校での生活は楽しいですか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を91%以上にする。</p> <p>▶ 89.2%(R7.7) 未達成</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容01 【1 安全・安心な教育環境の実現】 <p>1-1 いじめへの対応 ※生活指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問、教育相談を中心に生徒個々の実態を把握し、生徒理解を深める。 生徒への対応をスクールカウンセラー、生活指導支援員など複数のサポート職員と教員が連携して進める。 <p>◆ 生徒アンケート「悩みがあるときや困ったときに相談できる先生はいる」の質問項目で肯定的に答える生徒の割合を1回目より2回目で向上させる。</p> <p>▶ 75.9%(R7.7)</p> | - |
| 取組内容02 【1 安全・安心な教育環境の実現】 <p>1-2 不登校への対応 ※生活指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーと連携し、当該生徒個々の実態に応じた対策を講じる。 生活指導支援員と連携し、別室で学習できる環境を整える。 養護教諭と連携し、生徒個々の実態を把握し、教職員全体で生徒理解を深める。 <p>◆ 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。※前年度 6.7%</p> <p>▶</p> | - |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容03【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-3 問題行動への対応 ※生活指導部 ● 時間励行・挨拶の習慣付け、正しい言葉遣い、正しい服装の指導をおこなう。 ◇ 生徒アンケート「あいさつをしている」の質問項目において最も肯定的に答える生徒の割合を 76%以上にする。 ▶ 75.9%(R7.7) 未達成 | - |
| 取組内容04【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-3 問題行動への対応 ※生活指導部 ● 校則と集団生活でのマナーを習得させる。 ◇ 生徒アンケート「学校の決まり・規則を守っている」の質問項目において最も肯定的に答える生徒の割合を 67%以上にする。 ▶ 61.7%(R7.7) 未達成 | C |
| 取組内容05【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-5 防災・減災教育の推進 ※生活指導部 ● 地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施する。 ● 防犯についての避難訓練について模索していく。 ◇ 避難訓練を年間 2 回実施する。 ▶ 地震・火災……5月、地震・津波……12月(予定) | - |
| 取組内容06【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-6 安全教育の推進 ※健康教育部 ● 整美委員会活動や定期的な点検により、校内美化の意識を高める。 ◇ 生徒アンケート「学校をきれいに保つため、清掃活動に積極的に取り組んでいる」の質問項目で肯定的に答える生徒の割合を 89%以上とする。 ▶ 89.8%(R7.7) 達成 | B |
| 取組内容07【1 安全・安心な教育環境の実現】 1-6 安全教育の推進 ※教務部 ● 全体研修を計画し、全職員が参加できる体制をつくる。 ◇ 生徒の安心安全にかかる研修会を年間 1 回以上実施する。 ▶ 特別支援研修・保健研修・生活指導研修(4月)、AED 研修(6月) 達成 | B |
| 取組内容08【2 豊かな心の育成】 2-1 道徳教育の推進 ※人権・道徳委員会 ● 学校生活のさまざまな場面を通じて、人権尊重の精神を養う ● 道徳科を要とし、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養う。 ◇ 学校教育活動を通して人権教育の深化・充実を図り、生徒アンケート「相手の気持ちを考えて話をしたり行動したりしている」の質問項目で、最も肯定的に答える生徒の割合を 74%以上にする。 ▶ 45.4%(R7.7) 未達成 | C |
| 取組内容09【2 豊かな心の育成】 2-2 キャリア教育の充実 ※教務部 ● さまざまな体験学習や鑑賞などを実施し、豊かな感性を育てる。 ◇ 生徒アンケート「行事は楽しみである」の質問項目において最も肯定的に答える生徒の割合を 70%以上にする。 ▶ 60.5%(R7.7) 未達成 | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容10【2 豊かな心の育成】 2-3 人権を尊重する教育の推進 ※健康教育部 ● 性教育を通して命の大切さを理解させる。 ◇ 生徒アンケート「命や人権は大切だと思う」の質問項目で最も肯定的に答える生徒を92%以上とする。 ▶ 88.0%(R7.7) 未達成 | C |
| 取組内容11【2 豊かな心の育成】 2-4 インクルーシブ教育の推進 ※特別支援教育委員会 ● 特別支援学級在籍生徒が個々の力を発揮し、伸ばすことができる環境を整える。 ◇ 月1回以上、特別支援学級担任で教科会を実施し、情報共有、相談することで個に応じた支援の在り方を工夫する。 ▶ 毎月実施 達成 | B |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|--|
| 取組内容 01: 75.9%(R7.7) |
| ● 約3/4の生徒が相談できる先生がいると感じていることを示しており、取り組みは一定の効果を上げている。 |
| 取組内容 02: |
| ● 少しずつではあるが、完全不登校の生徒の数は改善されている。 ● 予防的なアプローチと組織的な共通理解の深化が必要。特に、「学びの保障」と「居場所の確保」の両立が重要。 |
| 取組内容 03: 75.9%(R7.7) 未達成 |
| ● 目標にわずか0.1ポイント届かなかつたが、約76%の生徒が「挨拶をしている」と肯定的に回答しており、指導は一定の効果を上げている。 |
| 取組内容 04: 61.7%(R7.7) 未達成 |
| ● ルールの意味の内面化不足である可能性がある。 |
| 取組内容 05: 地震・火災……5月、地震・津波……12月(予定) |
| ● 5月に地震からの火災を想定した訓練を実施し、12月に地震からの津波を想定した避難訓練を予定している。 |
| 取組内容 06: 89.8%(R7.7) 達成 |
| ● 「言われたからやる」という受動的な姿勢ではなく、「自分たちの学校を自分たちで守り、改善する」という主体的な意識に基づいているか、主体的な活動への深化が必要。 |
| 取組内容 07: 特別支援研修・保健研修・生活指導研修(4月)、AED研修(6月) 達成 |
| ● 量的な目標は大きくクリアしている。 ● 研修で学んだ知識が、教職員個々の日常の授業や生徒への対応に、組織的に活用・反映されているかの検証が不足。 |
| 取組内容 08: 45.4%(R7.7) 未達成 |
| ● 肯定的な回答は91.7%となっている。今後もさまざまな活動を通して人権教育の深化・充実をいくそう図る必要がある。 |
| 取組内容 09: 60.5%(R7.7) 未達成 |
| ● 約4割の生徒が学校行事に対して「楽しみ」という強い肯定的な感情を持っていないが、肯定的な回答は90.4%であり、総合的な満足度は高いといえる。 |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|--|--|
| 取組内容 10: 88.0%(R7.7) 未達成 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 全学年、3学期に性教育を行う予定。 | |
| 取組内容 11: 毎月実施 達成 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 情報共有が、「個に応じた支援」という具体的な授業改善や指導法の工夫にどれだけ繋がっているかの検証が必要。 生徒の自己肯定感や学校生活への満足度、交流の状況といった、インクルーシブ教育の成果を測る定性的な指標が必要。 | |

| 次年度(今後)への改善点 | |
|--|--|
| 取組内容 01 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 約1/4の生徒が「相談できる先生がいない」と感じており、この層がいじめや不登校といった潜在的なリスクを抱えていると考えられる。日々の生徒との関わりを深め、教育相談等を通して更なる生徒理解を深める。 SCが相談室に待機するだけでなく、昼休みや登校時などにオープンスペースで生徒と交流する機会を意図的に増やし、専門職への親しみやすさと認知度を高める。 生徒のストレス対処能力(レジリエンス)や多様性を尊重するコミュニケーションスキルを育む授業を計画的に実施し、いじめの未然防止に取り組む。 | |
| 取組内容 02 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 不登校の予兆となる「年間10日以上の欠席」や「保健室・相談室の利用状況」を早期発見のための指標として設定し、予防的な取り組みを強化する。 ScやSSWとの連携を強化し、家庭環境への働きかけや福祉サービスへの橋渡しを迅速に行うことでの学校外からの多角的なサポート体制を構築する。 | |
| 取組内容 03 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 挨拶や時間励行などの指導を、単なる校則順守ではなく、「豊かな心の育成」や「社会性・協調性の育成」に繋がるものとして、道徳や学級活動の中で対話的に学習する。 「正しい言葉遣い」や「時間励行」といった学校で指導している基本的な生活習慣について、家庭での指導への協力を啓発する。 | |
| 取組内容 04 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 校則や集団生活のマナーについて、生徒会や学級活動で「なぜ必要か」「どう改善すればより良くなるか」を生徒自身に議論させ、ルールの意味を深く考えさせる。これにより、自己決定に基づいた内面的な納得感を高める。 「守る」ことだけでなく、「より良い社会を創る」ために規則があるという視点を明確にし、市民としての意識を育成する。 | |
| 取組内容 05 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ハザードマップをICT機器で確認させ、地域の危険箇所や避難経路を生徒自身に探究させる学習を取り入れるなどの工夫を行う。 | |
| 取組内容 06 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 清掃活動が感染症予防に繋がることを周知し、「手洗い・うがいの励行率」や「清潔な環境を保つ意識」など、健康・衛生面に関する指標も連動させるなどの工夫を行う。 | |
| 取組内容 07 | |
| <ul style="list-style-type: none"> SCや生活指導支援員が中心となり、具体的な不登校や問題行動の事例を取り上げ、教職員が多角的な視点から対応策を検討・模擬実践するケーススタディ研修を導入する。 | |
| 取組内容 08 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 道徳科に留まらず、各教科や特別活動の中で「多様性の尊重」「公正・公平」といった人権意識を | |

| 次年度(今後)への改善点 |
|---|
| 育む視点を系統的に取り入れる。 |
| 取組内容 09 |
| <ul style="list-style-type: none">● 教職員は「管理・指示」から、「生徒の活動を支援し、振り返りを促す伴走者」へと役割を転換させる。● 行事準備を通じて、生徒が失敗から学び、困難を乗り越える力(レジリエンス)を育成することに焦点を当て、指導力の向上を図る。 |
| 取組内容 10 |
| <ul style="list-style-type: none">● 性教育を、単なる「命の学習」ではなく、「ジェンダー、多様な性(SOGI)、性暴力・性搾取の予防、インターネット上の人権侵害」など、現代社会における人権課題と結びつけて実施する。● 「相手の気持ちを考えて行動する」という共感性を、「人権尊重」という行動規範に具体的に落とし込む指導を強化する。 |
| 取組内容 11 |
| <ul style="list-style-type: none">● 特別支援学級担任、通常学級の担任・教科担任を交えた合同研修やケース会議を実施し、通常学級での授業のユニバーサルデザイン(UDL)化や、交流級での生徒への具体的な支援・配慮事項を共有する。● 「個別指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成・運用において、全教職員が関与し、生徒理解の共通認識を図る。 |

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|----------|
| <p>未来を切り拓く学力・体力の向上</p> <p>◇ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を48%以上にする。</p> <p>▶ 49.1%(R7.7) 達成</p> <p>◇ 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。※前年度3年国語1.04、数学1.02、2年国語1.01、数学1.16、1年国語1.04、数学1.10</p> <p>▶</p> <p>◇ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を64%以上にする。</p> <p>▶</p> <p>◇ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を55%以上にする。</p> <p>▶ 58.3%(R7.7) 達成</p> <p>◇ 校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を86%以上にする。</p> <p>▶ 83.3%(R7.7) 未達成</p> <p>◇ 校内調査において、「平日1日の家庭学習の平均時間はどれくらいですか?(塾・家庭教師などを含む)」の項目について、「1時間以上」と回答する生徒の割合を62%以上にする。</p> <p>▶ 49.4%(R7.7) 未達成</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|----------|
| <p>取組内容12【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4-1 言語活動・理数教育の充実(思考力・判断力・表現力等の育成) ※教務部</p> <p>● 年間を通して、校内研究授業を行い、授業力の向上に取り組む。</p> <p>◇ 年間を通じ、校内研究授業を1人1回実施する。</p> <p>▶ 予定通り実施。達成</p> | B |
| <p>取組内容13【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(実態に応じた個別支援の充実) ※教務部</p> <p>● 教科の特性を活かし、よくわかる授業を積極的に行う。</p> <p>◇ 生徒アンケート「授業の内容が理解できている」の質問項目で肯定的に答える生徒の割合を86%以上にする。</p> <p>▶ 83.3% 未達成</p> | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容14【5 健やかな体の育成】 5-2 健康教育・食育の推進 ※健康教育部 ● 保健委員会の活動や保健指導を通じ、生徒の健康意識を高める。 ◇ 生徒アンケート「生活習慣を見直しながら、健康的な生活が送れるよう意識している」の質問項目で肯定的に答える生徒を 78%以上とする。 ▶ 79.6%(R7.7) 達成 | B |
| 取組内容15【5 健やかな体の育成】 5-2 健康教育・食育の推進 ※健康教育部 ● 食育キャンペーンや食育通信を通して、食に対する知識や関心を高めさせる。 ◇ 好き嫌いなくバランスの取れた食事ができるよう、給食の残食率減少を促す活動をする。 ▶ 3.19%(1 学期) | - |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|--|
| 取組内容 12: 予定通り実施。達成 ● 研究授業で得られた知見や改善点を、互いの授業に共有・活用されている。 ● 「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり高めたりしている」と肯定的に回答する生徒の割合は 89.8%。 |
| 取組内容 13: 83.3% 未達成 ● 生徒の 8 割以上が授業内容を理解していると肯定的に回答しており、授業改善には一定の成果が見られる。 |
| 取組内容 14: 79.6%(R7.7) 達成 ● 身体的な健康だけでなく、ストレス、不安、心の健康といった、中学校段階で重要性が増す精神的な健康課題へのアプローチが十分かどうかの検証が必要。 |
| 取組内容 15: 3.19%(1 学期) ● 前期保健委員会の活動での、給食時の放送により、食育活動が一定の効果を上げている可能性を示唆している。 |

| 次年度(今後)への改善点 |
|--|
| 取組内容 12 ● 学習に困難を抱える生徒への個別対応、意欲の高い生徒への発展的な学習など、生徒の多様なニーズに応じたものになっているかの検証が必要。 |
| 取組内容 13 ● 否定的に回答した約 16.7%の生徒がどの学年、どの教科、どのような学習特性を持つのかが不明確であり、「実態に応じた個別支援」が十分に機能していない可能性がある。 ● 授業内や評価において、「結果」だけでなく「考え方」や「努力の過程」を評価し、生徒の自己肯定感を育む。 ● 成功体験を積み重ねるために、難易度を段階的に上げたスマールステップの課題を提示するなど、「わからなかった」から「わかった」「できた」に変わる瞬間を増やす。 |
| 取組内容 14 ● 生徒が気軽に相談できる窓口(養護教諭、SC、相談室)の機能や利用方法を周知し、「意識はしているが行動に移せない」層の心の健康状態に配慮し、相談体制の周知徹底を図る。 |

| 次年度(今後)への改善点 |
|--|
| 取組内容 15 |
| ● 学校での残食の傾向を保護者にフィードバックし、家庭での食生活を見直すきっかけを提供する。 |

大阪市立市岡東中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|----------|
| 学びを支える教育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ▶ 41.8%(R7.8) 未達成 ◆ 学習者用端末にある「スクールライフノート」の活用を週3回以上実施する。 ▶ 週5日実施 達成 ◆ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を43%以上にする。(基準1……1か月の時間外勤務時間が45時間以下かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下) ▶ 50.0% 達成 ◆ 学習者端末にある各種機能を教職員が理解し、授業や家庭学習において活用できるように取り組む。 ▶ ◆ 繁忙期を除いて毎日の完全退勤を19時とする。 ▶ | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|----------|
| 取組内容16【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 <p>6-1 ICTを活用した教育の推進 ※教務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主体的、対話的で深い学びができるようICT機器を活用し、生徒が主体的に学習する授業を展開する。 ◆ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ▶ 41.8%(R7.8) 未達成 | C |
| 取組内容17【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <p>7-1 働き方改革の推進 ※管理職</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教職員への負担が偏らないように、年度途中にも人材の確保に努める。 ● 教職員のICT活用による学校経営の効率化をさらに進める。 ◆ 「業務の負担軽減を感じることができた」に「そう思う」と感じる教職員の割合を60%以上にする。 ▶ 55.2%(R7.7) 未達成 | C |
| 取組内容18【8 生涯学習の支援】 <p>8-3 学校図書館の活性化 ※図書館担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。 ◆ 図書館の開館を週6回以上行う。※昼休み時・放課後はそれぞれ1回と数える。 ▶ 予定通り週6回開館できている。達成 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容19【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 | |
| 9-2 地域学校協働活動の推進 ※教務部 ● 学校元気アップ事業を活用し、自主学習会を実施する。 ◇ 定期テスト前や放課後、長期休業中自主学習会で、平均週2回以上実施する。 ▶ 予定通り実施できている。 達成 | B |

| |
|--|
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
| 取組内容 16: 41.8%(R7.8) 未達成 |
| ● 特定の教科や教員の間で活用頻度に大きな差がある。 |
| 取組内容 17: 55.2%(R7.7) 未達成 |
| ● 部活動指導員を1名補充、特別教育支援センター1名が退職、今後も人材確保に努める。 ● 6/13(金)に教職員向けにICT研修(生成AI)を実施。 ● 負担が大きいと認識されている特定の業務について、本質的な削減・見直しができていない。 ● ICT活用による効率化が、情報共有などの特定の校務に留まり、教職員が時間を割く指導・評価・生徒対応といった核心部分の負担軽減に繋がっていない。 |
| 取組内容 18: 週6回開館。達成 |
| ● 週6回の開館が予定通りできている。 ● 「読書が好き」と肯定的に回答する生徒の割合は64.8%。 |
| 取組内容 19: 予定通り実施。達成 |
| ● 予定通り実施できている。 |

| |
|---|
| 次年度(今後)への改善点 |
| 取組内容 16 |
| ● 授業直前や空き時間に簡単に実践できる具体的な活用事例紹介を増やす。(マイクロラーニングの推進) ● 端末を活用して「深い学び」を実現した授業の生徒の反応や成果物を校内で共有する。 |
| 取組内容 17 |
| ● 職員会議資料、各種申請書、配布文書について、クラウドやグループウェアを利用したデジタル化を徹底し、印刷・配布・ファイリング業務をゼロに近づける。 ● 全教職員で現状の業務を洗い出し、教育成果に直結しない業務や慣例的に続けているだけの業務を特定し、廃止または簡素化する。 ● 定例会議の時間半減や開催回数の削減、議題の事前共有と意思決定の迅速化を図る。 |
| 取組内容 18 |
| ● 週6回の開館が予定通りできているが、「読書活動の推進」という成果が達成されたかは不明。「読書が好き」と回答する生徒の割合を指標に加える。(意識変容の指標追加) ● 課題解決型の学習(探究学習)の際に、図書館を情報収集・整理・発表の場として積極的に活用する。 ● 放課後や季節ごとなど、時間帯や生徒の興味に合わせた展示企画、ビブリオバトル、推薦図書の紹介などのイベントを実施する。 |
| 取組内容 19 |
| ● 学習に課題を持つ生徒や、家庭で学習習慣が定着しにくい生徒に対し、個別の参加勧奨や、教員によるきめ細やかな声かけを行い、参加対象層の拡大を図る。 |